

## 大齋節第2主日特禱

全能の神よ、私たちには自らを助ける力のないことをあなたは知っておられます。どうか外は私たちの体を、内は私たちの魂を守り支えてください。そして体を襲うすべての災いと、魂を襲う悪しき思いから、私たちをお守りください。父と聖霊とともに一体の神であって、世々に生きすべてを治めておられる私たちの主イエス・キリストによってお願いいたします。 **アーメン**

## 旧約聖書 創世記 12章1－4節 a

12:1 主はアブラムに言われた。「あなたは生まれた地と親族、父の家を離れ、私が示す地に行きなさい。2 私はあなたを大いなる国民とし、祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福の基となる。3 あなたを祝福する人を私は祝福し、あなたを呪う人を私は呪う。地上のすべての氏族は、あなたによって祝福される。」4 アブラムは主が告げられたとおりに出かけて行った。

## 詩 編 第121篇

- 1 山々に向かって、私は目を上げる || 私の助けはどこから来るのか
- 2 私の助けは主のもとから || 天と地を造られた方のもとから
- 3 主があなたの足をよろめかせることがないように || あなたを守る方がまどろむことがないように
- 4 見よ、イスラエルを守る方は || まどろみもせず、眠ることもない
- 5 主はあなたを守る方 || 主はあなたの右にいてあなたを覆う陰
- 6 昼、太陽があなたを打つことはなく || 夜、月があなたを打つこともない
- 7 主はあらゆる災いからあなたを守り || あなたの魂を守ってくださる
- 8 主はあなたの行くのも帰るのも守ってくださる || 今より、とこしえに

## 使徒書 ローマの信徒への手紙4章1－5、13－17節

4:1 では、私たちがアブラハムを肉による先祖としていることについては、何と云うべきでしょう。2 もし、彼が行いによって義とされたのであれば、誇ってもよいが、神の前ではそれはできません。3 聖書は何と云っていますか。「アブラハムは神を信じた。それが彼の義と認められた」とあります。4 ところで、働く者に対する報酬は恵みではなく、当然支払われるべきものと見なされます。5 しかし、不敬虔な者を義とされる方を信じる

人は、働きがなくても、その信仰が義と認められます。

13 世界の相続人となるという約束が、アブラハムとその子孫に対してなされたのは、律法によるのではなく、信仰の義によるのです。14 もし律法に頼る者が相続人であるとするなら、信仰は空しくなり、約束は無効になってしまいます。15 律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違反もありません。16 従って、相続人となることは、信仰によるのです。こうして、恵みによって、アブラハムのすべての子孫、つまり、律法に頼る者だけでなく、彼の信仰に従う者も、確実に約束にあずかれるのです。アブラハムは、神の前で、私たちすべての者の父であって、17 「私はあなたを多くの国民の父とした」と書いてあるとおりです。彼はこの神、すなわち、死者を生きし、無から有を呼び出される神を信じたのです。

### 福音書 ヨハネによる福音書 3章1－17節

3:1 さて、ファリサイ派の一人で、ニコデモと言う人がいた。ユダヤ人たちの指導者であった。2 この人が、夜イエスのもとに来て言った。「先生、私どもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、誰も行うことはできないからです。」3 イエスは答えて言われた。「よくよく言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」4 ニコデモは言った。「年を取った者が、どうして生まれることができますでしょうか。もう一度、母の胎に入って生まれることができるのでしょうか。」5 イエスはお答えになった。「よくよく言うておく。誰でも水と霊とから生まれなければ、神の国に入ることはできない。6 肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。7 『あなたがたは新たに生まれなければならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない。8 風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」9 するとニコデモは、「どうして、そんなことがありえましょうか」と言った。10 イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こんなことが分からないのか。11 よくよく言うておく。私たちは知っていることを語り、見たことを証ししているのに、あなたがたは私たちの証しを受け入れない。12 私が地上のことを話しても信じないとすれば、天上のことを話したところで、どうして信じるだろう。13 天から降って来た者、すなわち人の子のほかには、天に上った者は誰もいない。14 そして、モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。15 それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためである。」16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

17 神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われる

ためである。